

## 「市民協働と地域づくり」セミナー

日 時：平成19年11月29日（木）13：15～

場 所：対馬市交流センター 3階 大会議室

研修内容：セミナー研修

「共働」でマチをつくるというコト  
～ 「共感」から「共働」へ～

講 師：加留部 貴行 氏

（対馬市市民協働推進指針策定委員会 委員長）

（九州大学 大学評価情報室 特任准教授）

（日本ボランティアコーディネーター協会 副代表理事）

# 「共働」でマチをつくるというコト

～ 「共感」から「共働」へ ～

特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 副代表理事・運営委員

国立大学法人九州大学 大学評価情報室 特任准教授 加留部 貴行

## 1. 行政、企業、NPOの共通項と違いとは

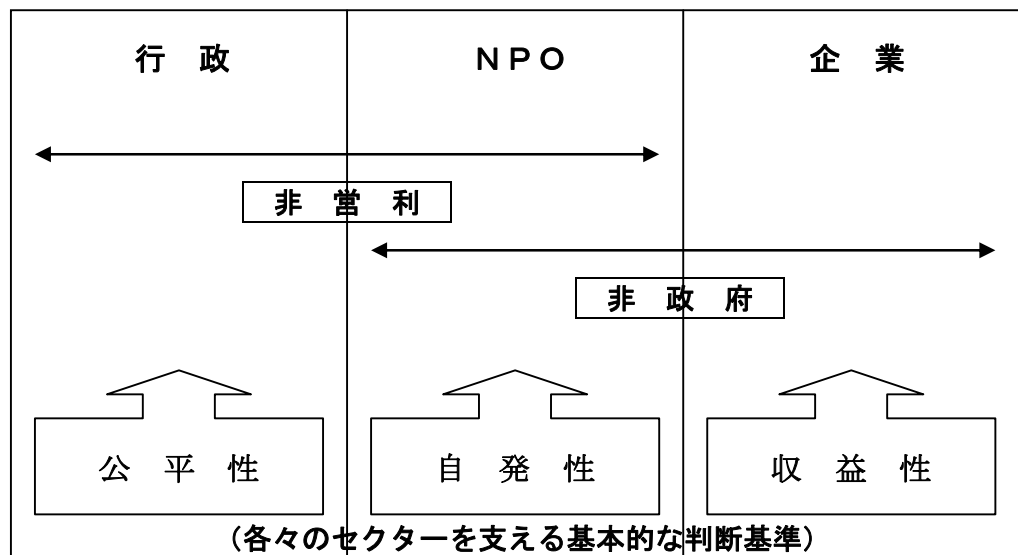
### (1) 阪神・淡路大震災における「2つの気づき」

- ① “オモテ”の気づき ～知って、驚き、ココロが動く
- ② “ウラ”の気づき ～「ボランティア」が行政の限界点を超えた！

### (2) 行政、企業、NPOの特性と意義

- ① NPOと行政、企業との間の相関関係とは
  - ・ NPOと行政の共通項・・・非営利性
  - ・ NPOと企業の共通項・・・非政府性

【図1】NPOと行政、企業との特性分析（加留部作成）



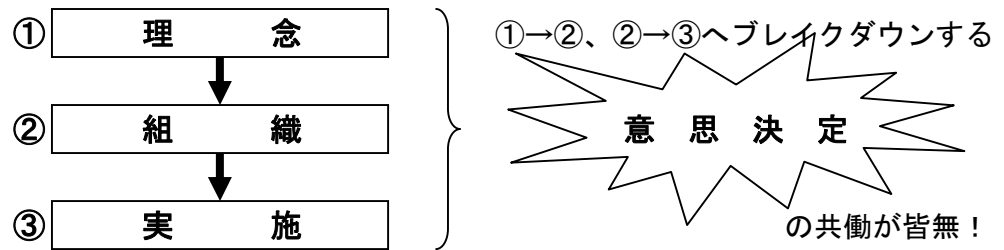
- ② NPOが「New Public Organization」と呼ばれるわけ

## 2. 地域、行政、NPOの共働のあり方について

### (1) 共働のカタチ

- ・「協働」は行政の言葉?!
- ・これまでの「協働」スタイルとこれからの「共働」スタイル

【図2】「きょうどう」のカタチあれこれ (加留部作成)

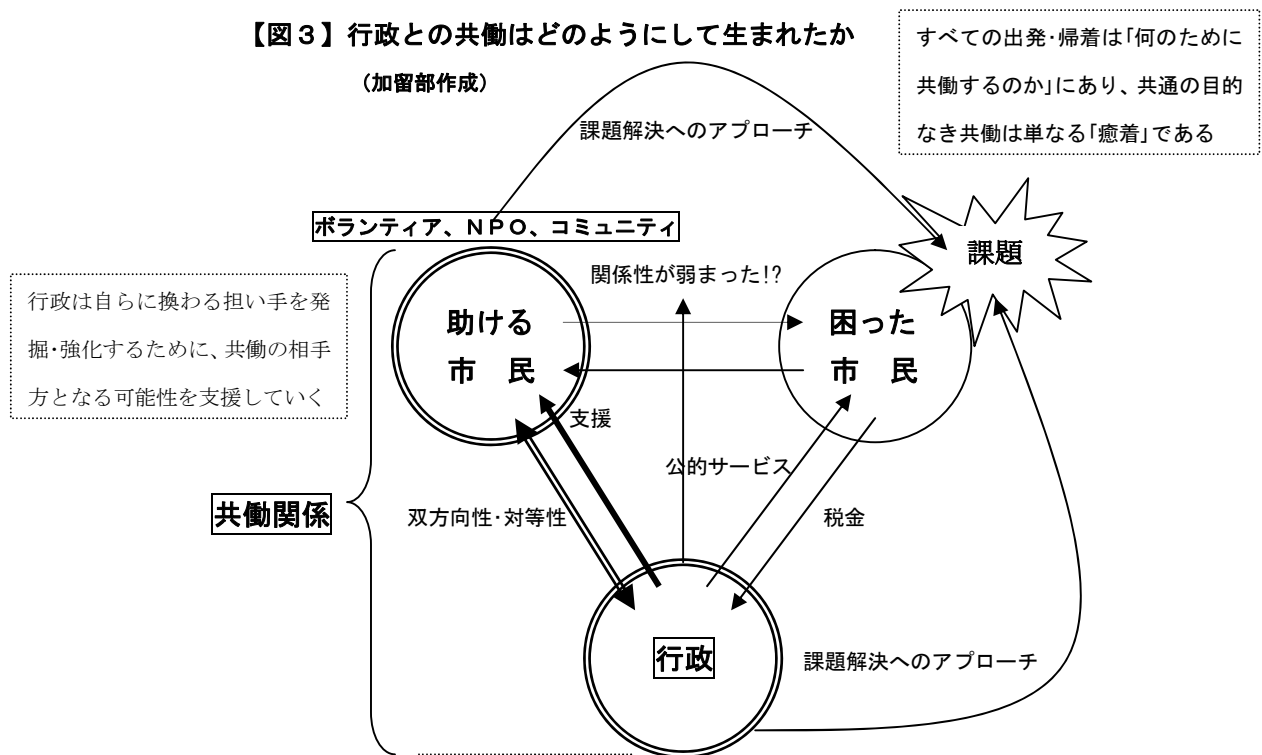


### (2) 共働へのプロセス

- ・そもそもは民間同士で解決できていた!

【図3】行政との共働はどのようにして生まれたか

(加留部作成)

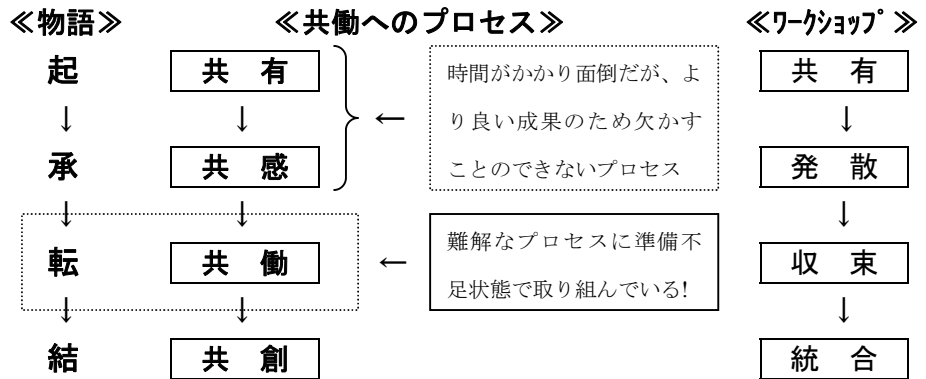


元来、市民と市民の関係(民民関係)の中で日常の課題は解決していたが、どうしても解決できない課題については行政に負託していった。そうして行政への依存が日常化し、次第に「民民」の関係性が弱まっていき、ますます行政の役割が大きくなっていった。しかし、行政だけでは担いきれないほどニーズが多様化していく中で、行政以外からの課題解決へのアプローチが始まっていった。それがボランティアやNPO、コミュニティの活動である。これらはその失われゆく「民民」の関係性を自らが再び結びなおす作業でもある。

### (3) 共働へのストーリー

- ・「共働」は起承転結の「転」にすぎない
- ・「共働」は「ストーリーづくり」である

【図4】共働へのストーリーとワークショップ（加留部作成）

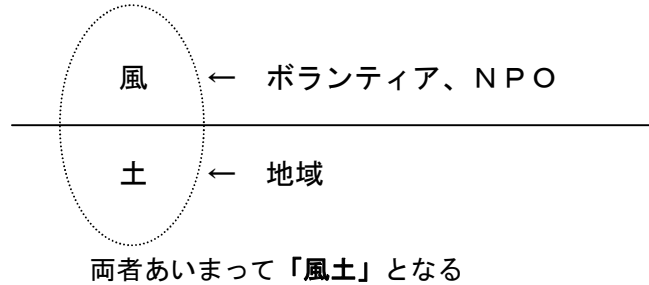


## 3. 地域・市民と向き合う、ということ

### (1) 地域社会との共働は新しい“風土づくり”

- ・「風の人」と「土の人」

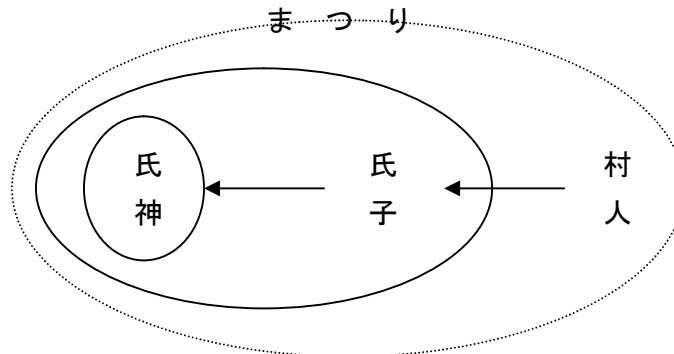
【図5】風の人、土の人（出典：法政大学教授・田村明氏による）



- ・「まつり」のしくみからみるコミュニティ

→まつりは氏子たちが氏神に心を寄せ合う姿

【図6】まつりの構造（出典：郷土史家・中島忠雄氏による）



## (2) 「コミュニティ」の意味するもの

- ・ 地域に入って知って欲しい3つのこと
- ・ 「コミュニティ」とは
- ・ 我々の「共通の敵」とは

## (3) 「ワーク」を「ネット」する

- ・ 「ネット」と「ワーク」は切り離して考える
- ・ 集まっただけでも「ネット」は出来上がり  
→ 目的なき「ネット」の多いこと！「ワーク」のないネットも多いこと！
- ・ まずは「何をするのか」という「ワーク」を創り出す

## (4) 出会いと交流の向こうにあるもの ～共働の成果とは

- ・ 我々は出会いきれていない
- ・ 交流は掛け算である
- ・ 「民関係」の強化を目指す ～一体、誰が豊かになるのか？

